

稱讃 二〇八号

二〇二〇年四月二日発行

発行 浄土真宗本願寺派 稱讃寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三―五二四二―二〇二五

FAX 〇三―五二四二―二〇二六

HP shousanji.com

こい
恋しくば

なもあみたがう

とな

南無阿弥陀仏を称うべし

われ うくじ なか

す

我も六字の中にこそ住む

親鸞聖人

去る三月二十六日（木）午後二時より鹿
児島稱讃寺において、父・北村龍也の七回
忌法要をおつとめいたしました。

私も姉と甥の三人で、前日二十五日に帰
郷いたしました。新型コロナウイルスの影響
もあり、羽田空港もいつもより人が少な
く感じました。鹿児島は当日までは感染者
は一人も出ていない状況でした。遠方の親
戚は、移動も考慮して、法要は欠席されま
した。

お天気は雨模様でありましたが、総代さ
んをはじめ、父と長いお付き合いをいただ
いたご門徒さんもお参拝くださいました。
一応、感染対策として、席を空けてお座り



二〇二〇年三月二十六日（木）午後三時
稱讃寺第三世住職清聲院釋龍也七回忌法要

いただきました。

お勤めは、『説阿弥陀經』で、調声に
は、現坊守の実弟である熊本・法雲寺ご住
職 加藤尚史師に勤めていただきました。
ご出勤は、近隣ご寺院の

妙円寺・大久保淳承師

浄教寺・寺田秀樹師

明昭寺・林正美師 のお三方であり、私
は、節唄・大金を担当しました。

「阿弥陀經」読経中、ご参拝の皆さまに
お焼香いただき、西句念仏「回向」で
おつとめがわかりました。

皆さんで、み仏にいだかれて」をご唱
和しましたが、歌詞カードを用意しておら
ず、申し訳なかったです。

引き続き、親戚寺院の真光寺住職であ
る平川真英師にご法話をいただきました。

ご法話の後、私が御文章を拝読し、最後
に施主・稱讃寺住職北村龍史 私の兄が
お礼の挨拶をしまして、恩徳讃をご唱和し
て法要は無事終了しました。

本来なら、その後、門徒会館で会食する
予定でありましたが、やはり、新型コロナ
ウィルスの感染予防のため、お弁当をお持
ち帰りいただくことにしました。

末っ子で、甘え、心配を掛けた私です。
生前、父が話していた約束も果たしていな
い私です。今も気がかりになっているのか
なあとと思うと、甘え癖なのでしょうか？父
がいつも見てくれているようです。

鹿児島・稱讃寺第三世住職

清聲院釋龍也 七回忌法要

表白 ぶこ法話 住職挨拶

表白

敬って
大慈大悲の阿弥陀如来の御前に
申しあげます

本日ここに 有縁の人々が集まって
香華を捧げ 恭しく仏前を莊嚴し

懇ろに仏説阿弥陀經を拝読して
金剛山 稱讃寺 第三世住職

院号法名 清聲院釋龍也の
七回忌法要をお勤めいたします

思えば 私どもは

恩愛はなはだたらがたく
生死はなはだつきがたし と

世のなりわいに紛れて
我が生命が

刻々と去りゆくことを知らず
さながら 風のなかの灯のような

はかない我が身に気づこうともせず
日夜 愛と憎しみの煩悩をおこして

迷いを重ねています
かしながら

念仏三昧行じてぞ
罪障を滅し度脱せし と

本願を信じ 念仏する人は
かならず浄土に生まれて
仏さまとなり

ふたたび この世に還り来て
私たちを

お迎え取ってくださっておられると
味わわせて頂いております

親鸞聖人は 『教行信証』の最後に
道綽禪師のお言葉を引かれて

前に生まれんものは 後を導き
後に生まれんひとは 前を訪へ

連続無窮にして 願わくは
休止せざらしめんと欲す

無辺の生死海を
尽くさんがための故なり と

仰せられました
このような愚かな私どもを

救おうとして
阿弥陀如来は

大悲の誓願を成就されました
宗祖親鸞聖人は

恋しくば

南無阿弥陀仏を 称うべし
我れも六字の中にこそ住む
そして

さだめて さきだらて
往生し候はんずれば

浄土にて かならず かならず
まらまいらせ 候ふべし と

ご遺言なされました
どのような人生であらうとも
私たちも 必ず浄土に往生し

俱会一処のよろこびを
今 ここに共にいただいております

このうえは
先立たれた人の み跡を訪ねて

こよなき み法に導かれ
力強く念仏の一道を歩みますことを

顕正山 法雲寺 住職 加藤尚史
謹んで申しあげます

ぶ法話

父母が念仏申して

参りたまいいしお浄土に
み跡を踏みて

我も往くなり

年毎に咲くや吉野の山桜
木を割いてみよ花のありかを

一休禪師

インドのある国王が、年に一度、城を開
放してパーティーを行い、国民の喜ぶ姿を
見て満足していました。あるその開放の
日、国王は一本の木に目にとまり、甘くて
美味しい果実が毎年、枝も折れんばかりに
取れるが、実のなる命のしくみを知りたい
と思われました。

命の不思議

命とは何でしょう。なかなか言葉に出来ません。命は「大宇宙」と思えます。

一五〇億年前に宇宙が出来、五〇億年前に太陽系が誕生、三〇億年前に地球に生命が誕生、約四〇〇万年前に人類が誕生したと言われている。

小さな生命が億年の旅を続けて、今、私は人間として、ここにいます。己の小さな命ではありますが、「大宇宙」と言えないでしょうか。

前生の不思議を慶び 後生の一大事を聞く

秀才天才と言われたある男子学生は、国立大学工学部物理学に入学、大学院を経てやがて大学教授になりました。若い頃から人間は死んだら「クズ」「ゴミ」だと公言して憚らなかった。教授を退官する頃、孫が白血病になりました。病室のベッドで、その孫が「お、死んだらどうなるの」と聞いてきました。教授は絶句して答えられなかったのです。孫の死が縁となり、孫の問いかけがきっかけとなり、その教授は仏教に遭遇しました。

朝夕、お仏壇の前に座り、お念仏の中に孫との出遇いを楽しみ、お浄土でまた会おうねと言いつつ、日々を送られました。お浄土があつてよかった」 お念仏にめ

ぐりあえて良かった」と喜ぶ日々であられました。

若し、人間死んだら「クズ」という人がいたら、その人は、生きている間己という「クズ」と共に生きることになります。

ポリネシアの住民は、夜空の星を指して私が死んだらあの星に住むのだと言うそうです。生きている間、綺麗な星を心に抱いて生きているのです。

私たちは、死んで終わっていく命ではなく、必ずお浄土に仏として生まれる」のです。私たちは生きている間、悩み悲しみ苦しみのない世界、二度と別れのない世界のお浄土を心に頂いて生きているのです。

今を生きながら、実は、浄土を生きている」のであります。

『説阿弥陀経』には「これより西方十万億仏土を過ぎて世界あり、名づけて極楽という。その土に仏まします、阿弥陀と号す。今現にましまして法を説きたまう」と説かれています。お経には、はるかかなた」とありますが、時間と空間を飛び超えて「南無阿弥陀仏」の声となり音となり、願いとなって私にはたらいてくださっておられる。

弥陀の呼びたもう「南無阿弥陀仏」と私が称える「南無阿弥陀仏」が響き合うときそこには出遇いこそあれ、別れはありません。

お釈迦様は、人間の浅知恵で浄土がある

とかなんとかを考える必要は無く、仏さまのいたadakiものとして有難く頂戴すれば良いのですと仰られました。

お浄土があつて良かった。
お念仏があつて良かった。

※法要が終って、真英兄さんに、最初の詩はどなたが作られたかを聞いてみました。ハンセン病を患った方が、自分の親の葬式に参拝しようと思ったが、周りに断られしてしまった。この世では会うことはできないが、親が称えたお念仏を通して、必ず、お念仏申す自分も同じお浄土に生まれ、また会えるとのご信心を詠ったものだよと教えてくれました。

布教の時のご讃題にはできないことなのかもしれないけど、私はこの詩を常に胸に留めておきたいと思っているのですと、お話くださいました。

お念仏申す身は、亡くなってから「俱会一処」ではなく、既にお浄土から遇いにきてくださっていると、味わえることなのですね。

今、お念仏申す身となっている、前生からのご縁の不思議を思い、慶び、後生、必ず、お浄土に生まれ、自分も仏とならせていただく大きなはたらきをしてくださっている阿弥陀さまのご本願を喜ぶことと味わわせていただきました。

合掌

住職挨拶

門徒方の法事や葬儀、また、書籍・雑誌新聞等の文言の中で、亡き父とのご縁を改めて、頂いております。

新しいところでは、昨年亡くなられた女優・樹木希林さんのあるインタビュー記事で父との出来事を思い至ったことであります。余計なことですが、私は樹木希林さんが「悠木千帆」という芸名のころから、好きな俳優さんでした。私にとって、彼女は良い意味で非常識な人でありました。それは常識という 自分にとって都合がいい」という壁の向こうに、何かを見つめる姿が、演技や発言、はたまたプライベートな生活の中で、垣間見られたからです。

その記事で、樹木希林さんのお話の要約は、次のような内容であったと思います。

宗教とか仏教の話とか、なかなか信じがたいものがある。・・・

しかし、私は、仏様の教えを、あるがままに受け止めていきたい。

み仏の言葉を聞いても、人間の常識、即ち、計らいのもとでは、聞こえてこないのが不可思議なる真実でありましょう。樹木希林さんは、長年、重い病気であった様ですが、なのに、ひょうひょうとして生きていられたように思えます。そこには、思い通りにならない私自身の命を抱えていく複雑な思いの中で、弱く、迷いのありようで

しかない私を「任せよ」と、しっかり抱き留めてくださる大悲大慈の仏心を、ただ受け取るだけでありましたという心境を吐露されたものではなかったのではないかと。

父の最期の入院、そして往生の姿の中に、樹木希林さんの言葉が重なります。

父が肺炎を患い、十日程度の入院で大丈夫と聞かされたが、その後、経過が思わしくない様態が続いた。入院が長引きそうということで、私と母が新たに必要品を届ける際、父の念珠と小さな阿弥陀さまを病室に持って行きました。父はその仏さまを手に取り「ああー」と言葉とも嘆息とも言えない声をあげました。あの時の声は何であつたのだろう。八七歳という年齢、一向に良くならない自己の体を思うとき、死が現実として明らかになっていく。夜中の病室の中、いかなる心であつたろうか。み仏の教えを伝えるべき僧侶、しかしまた、今を生きている人でもありました。

かねて聞き示されたみ教えをいただきながら、命終っていかねばならない我が身を辛く、心細く思うのも事実、そしてそう思ってしまう我が身に愕然とするのも事実でしょう。その父に渡した阿弥陀さまを手に取り、ああ、そうであつた。我が身のこととも思い通りにならないことを、哀れみたまう如来の大悲大慈のお心にお任せするのみであつた」と頷かせて頂いたのが、父の姿でありました。

本願力にあひぬれば

むなしくずぐる人ぞなき

功德の宝海みちみちて

煩惱の濁水へだてなし

本願力の力であれど、強弱ではなく、温かい力であると語られた妙好人がおられる。温かいからこそ、いのちをお育ていただけるのでありましょう。

今生の別れでありながら、悲しいご縁でありながら、仏縁として頂いたとき、父との別れが私をお育て頂く尊きご縁となり得るのであります。

※小さな阿弥陀さまを手にとった父の「ああー」の一言から『恵信尼消息』で、親鸞聖人が、まはさてあらん」とおっしゃったことと重なり

ました。

父の胸中も、我が身と阿弥陀さまの真実が明らかに頷けた「噫」だったと思ふことでもあります。

合掌





令和元年度 稱讃寺活動報告

二〇一九年四月一日
二〇二〇年三月三十一日

総参拝数 一八〇名 前年度一八三名

恒例法要 三二名 前年度四一名

七月 七日 ㊄

永代経法要 八名参拝 前年度九名

九月 二二日 ㊄

秋季彼岸会法要 七名参拝 前年度二二名

二月 一五日 ㊄

報恩講 講師 東組一樹寺 有賀良雄師

三月 二二日 ㊄ 一〇名 前年度一二名

春季彼岸会法要

七名参拝 前年度九名

のんのん法話会 二二名 前年度四五名

四月 一六日 ㊄	のんのん法話会	二名
四月 二六日 金	のんのん法話会	一名
五月 六日 ㊄	のんのん法話会	一名
五月 一六日 ㊄	のんのん法話会	二名
六月 二六日 ㊄	のんのん法話会	一名
七月 六日 ㊄	のんのん法話会	二名
七月 一六日 ㊄	のんのん法話会	二名
八月 六日 ㊄	のんのん法話会	一名
八月 一六日 金	のんのん法話会	三名
九月 六日 金	のんのん法話会	二名
一〇月 六日 ㊄	のんのん法話会	一名
十一月 一六日 ㊄	のんのん法話会	二名
十二月 一六日 ㊄	のんのん法話会	二名

参拝者数 一二三名 前年度九七名

参拝訪問 五名 前年度一七名

法務 内勤 二〇件 前年度一四件
一七名 前年度八〇名

法務 外勤 八二件 前年度七二件

他寺院法要手伝い 二八件 前年度二七件

布教 五件 前年度一六件

門徒総代会

第1回 六月 一日 ㊄ 5名参加
第2回 九月 二二日 ㊄ 4名参加

本山・教区・組・その他

五月 二二日 ㊄	築地本願寺宗祖降誕会
六月 六日 ㊄	東組仏教婦人会連盟総会
六月 二二日 ㊄	東組組会総代研修会
九月 八日 ㊄	東京教区総代世話人研修会
九月 一八日 ㊄	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
十一月 一五日 ㊄	築地本願寺宗祖報恩講
二月 八日 ㊄	築地本願寺成道会布教大会
一月 一五日 ㊄	本山・御正忌報恩講
中止 3月12日 ㊄	東組実践運動推進協議会
中止 3月28日 ㊄	東組臨時組会

帰敬式受式者

山田昌三様 一月 一五日 築地本願寺報恩講

◎法務は増えているのですが、法話会や布教が、毎年減少しております。住職の聴聞の姿勢が問われていると反省いたします。

三月二十二日 ㊄ 午後二時より、秋のお彼岸法要を行いました。

新型コロナウイルスの感染予防や拡散防止のため、全国でも法要を中止されると聞きますので、もしかしたら、どなたも来られないかなあと思っております。

しかし、細川研一さん、川田原末廣さん・正明さん親子、山田昌三さん、高橋八重子さん、福井恒彰さんがご参拝くださいました。

ご一緒に、『説阿弥陀經』をおつとめして、少しお話をさせていただきました。私は満悦して危険を顧みず、ご参拝いただきました」と申しましたこと、後で、不謹慎かなあと思いました。

この言葉が出たのは、『鸛異抄』第二条で、親鸞聖人が、関東から上洛されたご門弟に、おのおのの十余箇国のさかひをこえて、身命をかへりみずして、たずねきたらしめたまふ御ころござしひとへに往生極樂のみちを問ひきかんがためなり。のお言葉に引っかけたつもりでした。皆さんがお帰りになって間もなく、中木原乃既子さんもお出でくださいました。皆さま、ご参拝、誠に有り難うございます。

親鸞聖人御誕生八五〇年

立教開宗八〇〇年 慶讃法要企画

親鸞聖人を知ろう

中世の延暦寺

わたしたちはこれまでしばしば、仏教の民衆解放という視点で法然・しんらんを評価してきた。それまでの旧仏教は民衆救済を怠った貴族仏教であったのに対し、法然や親鸞は仏教の教えをはじめて民衆の世界に説きひろめた、と……。しかしこうした見方は、大きな難点をかかえている。旧仏教の質的变化の無視である。親鸞の生きた時代、旧仏教はもはや律令体制下のそれとは大きく変化していた。わたしたちはこれまでこの変化を見落としてきた。

旧仏教は奈良時代から平安初期に、朝廷の積極的な支援を受けて興隆した。律令体制下の仏教は朝廷から手厚い保護を受けていたが、その反面、さまざまな規制に縛られていた。私度が禁じられて自分の弟子を思い通りに僧侶にすることができなかったし、民衆布教も人心を惑わせることしばしば禁じられた。律令体制のもとでは、仏教はさまざまな規制でがんじがらめに縛られていた。

ところが、この律令体制は十世紀で崩壊した。班田収受や租庸調のシステムが破綻し、支配のしくみが大きく変化していく。規制緩和と民営化・地方分権、大きな政府から小さな政府への転換……。いずれもわたしたちに馴染み深い用語であるが、これが新しい王朝国家の基

本方針となった。仏教を縛っていたさまざまな制約が撤廃され、仏教界は活動の自由を手にした。しかしそれは苦い自由であった。なぜなら、経済支援の打ち切りと一体であったからだ。朝廷の財政援助を失った寺院は、経済的危機に直面する。こうして古代仏教は否応なく、自己変革を迫られた。旧仏教の中世化がここからはじまる。

旧仏教の中世的変容でとくに留意すべきは、民衆化である。これは政治と思想の両面で推進された。旧仏教の僧侶たちはまず地域社会のなかに入り込み、武士の支配や、国司の支配に対する民衆の不満を組織化した。受領は倒れるところに、土をつかめ」（『古今物語集』巻二八）といわれるように、当時の国司の貪欲ぶりは有名であるが、一方、武士もまた耳を切り、鼻を削ぐといった粗野な暴力で民衆をねじ伏せようとした。延暦寺の「悪僧」たちは、それに対する民衆の不満を掘り起こして、貪欲な国司や凶暴な武士の非道を朝廷に訴えた。これが強訴である。この強訴によって延暦寺は民衆の不満を代弁し、国司や武士を流罪に追い込んだ。延暦寺など旧仏教が中世化することができたいちばんの要因は、この民衆の不満の組織化にあった。

民衆化は教えの面でもすすめられた。延暦寺で著わされた『阿弥陀新十疑』では、煩惱をもった普通のひとであっても念仏の力で極楽往生できる、と説いている。また、真言宗の『寛禪鈔』では悪人の往生を説く一方、中国の善導の著書を引用しながら念仏の専修をすすめている。旧仏教の世界では悪人往生は常識となっており、やがてその教えは貴族社会、さらに民衆

の世界にもひろまっていった。保安元（一一二〇）年、ある貴族はその日記で「弥陀の本願は重罪人も棄てざるなり。これによりて往生の志ある人は、ただ念仏を修すべきなり」（『甲右記』）と書き記している。

さらに『梁塵秘抄』は、弥陀の誓ひぞ頼もしき 十悪五逆の人なれど 一度御名を称ふれば 来迎引接疑はず」と謳っている。双方とも、いかなる悪人であっても念仏を称えるだけで極楽往生できる、と述べている。『梁塵秘抄』は後白河院が流行歌の歌詞を集めて編纂したものであり、その成立は親鸞の誕生以前にさかのぼる。親鸞が生まれる以前から、念仏による悪人往生の教えは民衆歌謡として流布していた。旧仏教の教えは民衆の世界にまで浸透していた。仏教の民衆解放は、法然や親鸞を待たずとも、すでに院政時代に旧仏教の手によって実現されていたのである。

実は院政時代は旧仏教の最盛期であった。旧仏教は一時、朝廷から冷遇されたが、末法思想を手がかりにして再び朝廷の支援獲得に成功した。僧侶たちは「国司が私利私欲に走って、寺院経済を破綻させ仏法を衰滅させた」と非難し、現状を放置すれば日本は末法に呑み込まれて、戦乱の世になる」と主張した。そして「国土の平和と王権の安定のためには、寺院経済を安定させて仏法興隆と末法の克服を図ることが必要だ」と力説して、荘園寄進を朝廷に求めた。この主張は転換期を生きる貴族たちの不安をとらえ、朝廷は莫大な財を仏法興隆に投じていった。こうして旧仏教は最盛期を迎え、その隆盛のなかで、悪人往生や念仏往生の教えが民衆の世界にまで流布したのである。

朝廷の仏法興隆策は、他方では經典研究の深化をもたらした。院政時代には朝廷の保護のもと、二会・四灌頂・三講といった国家的法会が整備されている。学僧たちは寺内法会で研鑽を積んで選拔され、秀でた者は国家的法会の晴れ舞台で宗派を代表して論議に臨んだ。延暦寺や興福寺の僧侶が貴族や天皇の居並ぶ前で、宗派の榮譽を一身に背負って激しい論戦をくりひろげた。これにより、学僧たちが研鑽と能力によって立身出世できる道が整えられ、仏典の実証的研究が劇的にすすんだ。

延暦寺の証真・東大寺の宗性・凝然のように、平安末から鎌倉中期にかけて、旧仏教は卓越した学僧を輩出している。仏法興隆は仏典研究の深化となって結実した。法然・親鸞らの個性的で独創的な經典解釈の背後には、旧仏教での実証的な文献学的研究の蓄積があった。もちろん、法然たち思想家と、仏教学者とはその立場を異にしている。しかしかれら思想家たちの教えも、旧仏教における仏教学研究の深みのなから誕生したことを忘れてはならない。

しかも中世の延暦寺で扱っていたのは、天台宗や真言宗だけではない。法相宗・三論宗・華嚴宗はもとより、禅宗や浄土宗も教えていたし、さらに儒学・和歌はもちろんのこと、医学・薬学や農業技術・土木技術まで教授していた。まさに知識の宝庫である。延暦寺は一種の総合大学のような存在であり、中世の知識体系の結節点であった。

中世では旧仏教の学問が衰退し、延暦寺は戦争と強訴に明け暮れて腐敗・墮落・混乱の場に化したといわれてきた。しかしそれは鎌倉新仏教の清新さを際立たせるための虚構にすぎない。

い。旧仏教の豊かな知的創造力、これが法然や親鸞の母胎でもあった。

内乱の思想的衝撃

こうした仏法のありように深刻な問いを投げかけたのが、治承・寿永の内乱（源平争乱）である。これまで朝廷は、末法を克服して平和を実現するため、莫大な財を仏教振興に投じてきた。寺院は満ちあふれ、教学は盛んとなって、その教えは民衆の世界にも浸透するなど、仏教界は空前の活況を呈していた。にもかかわらず、内乱を阻止することができなかった。しかもその戦乱は、保元・平治の乱のような数百人単位の局地戦ではない。戦いには数多くの百姓も駆り出され、しかもそれが全国におよんだ。内乱の被害が癒えるには、平家の滅亡後、二十年近くの歳月を要したほど、戦乱の爪痕は深刻であった。

『平家物語』が国民的文学になったのは、源平内乱が国民的体験といえるほど、その影響が広くかつ深いものであったからだ。いったいなぜ、このような内乱が勃発したのか。数多くの僧侶が必死になって平和の祈りを捧げたにもかかわらず、なぜ戦乱を阻止することができなかったのか。貴族も、僧侶も、この重い問いを反芻した。

それに対しては三とおりの答えがあった。第一は仏法の興隆が未だ不十分だったという考え、第二は僧侶の質に問題があったという見方、そして第三は旧仏教の教えそのものに難があるという主張である。第一は旧仏教の主流派の考えである。仏法興隆はなお不十分であり、朝廷は平和を実現するために、いっそうの財を

投じてさらなる造寺造塔に励むことが必要だ、と彼らは主張した。

第二の考えは、僧侶の質に問題があると考えた人びとは、戒律復興を掲げて仏教界を刷新しようとした。仏法の教えは正しいし、朝廷もまた仏法興隆に十分な力を尽くしてきた。欠けていたのは僧侶の質の向上である。ということ。戒律をきびしく遵守する禁欲運動がわき起こり、朝廷や幕府もそれを積極的に支持した。貞慶は法相宗と戒律、明恵は華嚴宗と戒律、栄西は禅と戒律、俊芿は天台・真言と戒律、そして叡尊は真言宗と戒律を打ち出した。彼らはいずれも、禁欲をまもり、戒律を遵守することによって、仏教の教えを再活性化しようとした。

それに対し、これまでの仏教の教えに根源的な疑問をもった人びともいた。法然・日蓮・道元、そして親鸞である。彼らは眼前の仏法のありように絶望し、旧仏教の教えに根本的な懷疑を突きつけた。そしてありうべき真の仏法を探求し、やがて彼らは、みずからの個性と資質に即して、その答えを見いだしていった。この第三の人びとは少数派ではあったが、彼らの根源的な思想の営みは、時代を超えた普遍性を獲得するに至る。

旧仏教の空前の活況と、それにもかかわらず内乱を阻止することのできなかった無力……

それへの痛切な自責と根源的な懷疑が親鸞を「親鸞」そのひとへと導いていった。すべての人間は平等に悪人たらざるをえないという独創的な平等の教え、そしてこれこそがまことの仏法であるという確固たる確信は、内乱に打ちひしがれた無力と絶望と怒りのなかから誕生した建仁元年、親鸞二十九歳のときのことであった

稱讃寺 行事予定

二〇二〇年 四月の行事予定

五日 日曜礼拝 午前九時
門信徒の集い 午後二時
兼 花まつり

六日 月 のんのん法話会 午後二時

二日 日曜礼拝 午前九時

六日 木 のんのん法話会 午後二時
兼 立教開宗記念

九日 日曜礼拝 午前九時

一六日 日曜礼拝 午前九時
親鸞聖人を知ろう 午後二時

新しく開通した佐多路の「伊座敷トンネル」です。「千口ぐらゐある長いトンネル」です。トンネルをぬけると・・・

二〇二〇年 五月の行事予定

三日 日曜礼拝 午前九時

六日 門信徒の集い 午後二時

一〇日 日曜礼拝 午前九時

六日 のんのん法話会 午後二時

七日 日曜礼拝 午前九時

二日 築地本願寺親鸞聖人降誕会

二四日 日曜礼拝 午前九時

一六日 日曜礼拝 午前九時

三日 親鸞聖人を知ろう 午後二時

二〇二〇年 六月の行事予定

六日 門信徒の集い 午後二時

七日 日曜礼拝 午前九時

一四日 日曜礼拝 午前九時

六日 のんのん法話会 午後二時

二二日 永代経法要 正午

一六日 のんのん法話会 午後二時

一八日 親鸞聖人を知ろう 午前九時

こうしんでん
耕心田
こうこう
心を耕す教えを聞こう

二〇二〇年 心のともしび」四月カレンダーより

編集後記

新型コロナウイルスのパンデミックが収まらない状況で、皆さまのご心痛、ご心労いかばかりかと拝察申し上げます。

田畑正久先生のプロゲに友人のお医者さんから「〇〇〇に各宗教は無力と言われる。仏教者は如何に生きればよいでしょうか」との質問に対し、田畑先生は、仏教の救いは「第二の矢を受けない」と教えています。とお応えになっておられました。ある日、お釈迦様は、お弟子に「仏法を聞いたことがない人と、仏法を聞いた人とは、どこが違うのでしょうか」と質問されましたが、お弟子は誰も答えられませんでした。

お釈迦様は、「二つの矢の譬え」で、その違いを説かれました。未だ仏法を聞いたことがない人は第一の矢を身体で受け、さらに第二の矢を心で受けそれに執着し、苦しみます。しかし、仏法を聞いた人は、第一の矢（逆縁）から生じる怒り、妬み、苦しみ、悲しみ、絶望という第二の矢を受けることがないし、それに執着する心が生まれず」と仰いました。

第一の矢（CONDTN）を受けないように、日頃から対策を講じておくことは大切な事ですし、差別しない等、人道的な行動が求められます。

喜怒哀楽の生き方しかできない私ですが、お念仏申す営みに、第二の矢を受けていても、大丈夫だよ」と傍でいつも呼び続けておられる阿弥陀さまは、執着する私の心を溶かしてくださっていると、味わって参りたいと思います。

二〇二〇年度 稱讃寺門信徒会費

年会費 六千円

振込先 城北信用金庫 一ツ家支店

名義 浄土真宗本願寺派 稱讃寺教会

代表 北村 信也

口座 普通 6176051